

安全人報誌

安衛委 No.123
平成24年4月6日
安全衛生推進委員

春の交通安全運動

春の全国交通安全運動が四月六日～十五日の十日間実施されます。

運動の基本

子どもと高齢者の交通事故防止

子どもの交通事故を防ぐには

○保護者の皆さんは、子どもを車に同乗

させる際には必ずシートベルト・チャイルドシートを着用させましょう。

○急な飛び出しをしないよう「止まる・見る・待つ」の正しい道路横断方法を

習慣付けましょう。

○運転者は、子どもを見かけたらまず減速して安全を確認しましょう。

○高齢者の歩行中の事故を防ぐには

○外出する用事は、なるべく日中のうちに済ませ、暗くならないうちに帰宅するようにしましょう。

○道路を横断する際は、左右の安全を十分確認し、近づく車が見えたら無理に渡らず、通り過ぎるのを待ってから横断しましょう。

○夕暮れ・夜間に出かける際には、明るく目立つ服装をし、夜光反射材をとりつけましょう。

○高齢者を見かけたら速度を落とし「目配り」「気配り」「思いやり」のある運転に努めましょう。

○夜間走行は「速度を控え 原則上向きライト こまめな切り替え（幻惑防止）」を習慣付けましょう。

○後部座席もベルト着用

県内の一般道路での後部座席の着用率は33.3%と低調です。後部座席だから「安心」「ベルトを着用しなくても良い」という認識は間違いです。

○後部座席は、後部座席を含めた同乗者全員がベルトを着用したのを確認してから発車しましょう。

○飲酒運転の根絶

昨年、飲酒交通事故は三百九十件発生し、死者数は一三三人に上っています。また、検挙者数は五一八人に上り、四十七歳代・五十歳代などの働き盛り、子育て世代が多い他、青年層の割合も増えてきています。

○飲酒運転は、当事者だけでなく、周囲の人も巻き込む重大な犯罪です！

人の命を危険にさらすばかりでなく、自分の人生まで狂わすことを認識し、家庭職場等で飲酒運転を根絶しましょう。

安全大会

四月二十日（金）午後二時から大越公民館で行います。講師を建設業労働災害防止協会指導員の遠藤秀治様にお願ひしておりますので、全員参加をお願いいたします。

各現場での安全対策又はヒヤリ体験談

今回は国道288号地域活力基盤創造工事を担当しました坪井英樹さんです。

震災後の仕事ということで、気合を入れ取り組みました。しかし、震災の影響により、前工事も1ヶ月ほど遅れ竣工し、その後現場に取りかかりましたが、発注時の図書の違いや施工条件が変わったこと、前工事にて完了してはいたくない工種が未完成だったため、最初から整合性がとれるように計画し、協議しなくてはいけない現場でもあった。協議・協議と書類に追われ、工事の内容を把握するのにかなりの時間がかかり、初めの内は、安全対策を行う準備に余裕など無く準備不足が思いの外何度もあり大変苦労しました。その後、電柱移転等が終わり、本格的に作業が進み始めると雨による災害でした。作業エリアが広いために、工夫して雨対策をしていましたが、広範囲（四方八方）から雨水が流れてくるし、流末が未完成だらけの上流末の側溝が通常の物より小さいために処理できなかった。その対策として沈砂池の数を増やして仮設の側溝を設置し、土砂が流出しない処置を行った。結果、直接既設の側溝に土砂が流出することもなく、沈砂池の土砂撤去だけで済んだ。又、現場内の安全対策としては、電線に仮設防護を行い、接触による破損を防ぐ対策を行ったり、市道の掘削部に關しては、役所と協議し、切り土の掘削位置を必要最小限におさえる方法にした事と、シューティングの施工に一部変更し、市道の掘削なくす方法をとった。その事により夜間と休日でも安全に又、ゆつくり心配しないで休むこともできました。今回の工事の経験からいろいろな事を学び、作業だけでなく休日などの事も考えた安全対策も重要なポイントの一つとわかり今後の工事に活かしたいと思えます。

準備不足が思いの外何度もあり大変苦労しました。今回の工事の経験からいろいろな事を学び、作業だけでなく休日などの事も考えた安全対策も重要なポイントの一つとわかり今後の工事に活かしたいと思えます。

